

新しい観光協会員様のご紹介
以下にご紹介させていただきます
ただ今1件の会員様が

好天に恵まれ賑わう柏島と響く宿泊減

お彼岸を過ぎた頃から急激に気温が下がり、あの暑かった夏がすでに懐かしく感じます。この夏は雨が少なく、天候の面では恵まれたと言えるのではないのでしょうか。柏島に住み着いたイルカ親子が橋の周りの決まった場所で見られるようになっていたこともあってか、柏島方面からは連日賑やかな声が聞こえてきていました。キャンプのお客様も特に後半は好天の影響もあって売り上げを伸ばしました。一方で町内ホテルや宿泊施設の立て続けの廃業などを受け来店数や売り上げを落とした事業者は明暗が分かれることとなりました。町内宿泊事業の盛り返しを期待する声も小さくありません。

イルカ親子が観光をけん引



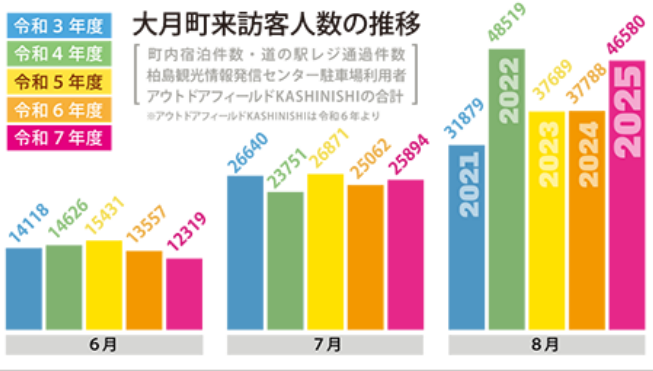
本来外洋を住处とするイルカの親子が柏島の海に定着して随分経ちますが、今年に入り柏島橋周辺で毎日見られるようになり、噂を聞いた観光客で港も橋も大変な賑わいとなりました。観光情報発信センターの駐車場も満車が続き、イルカ親子が集客をけん引したと言えます。

今年も花らんまん秋の大月

おもに海のアクティビティ目的の来町者はひと段落するものの、秋は大月にとつて大変過ごしやすいうゾーン。秋の収穫による農産物や魚が味覚を、色づく花や山の葉が目を楽ませてくれます。とくに「遅咲きのヒマワリ」として愛される晩秋に咲くあざやかなヒマワリと、白や紫、ピンクといった多様な色の花畑を敷くコスモスが人気で、毎年多くの観光客を呼び込む人気コンテンツとなっています。ヒマワリは頭集地区の有志の方、コスモスは四万十かいどう大月支部さんが中心に活動されています。ぜひお客様にもご案内ください。



大月町来訪客人数の推移



竜ヶ浜キャンプ場売り上げ夏後半は好調

好天に恵まれて柏島の竜ヶ浜キャンプ場は今夏、キャンプ客を中心ににぎわいを見せました。5月はゴールデンウィークの天候不調が原因か来客が落ち込み、また7月の海の日の連休も休みに前雨予報が出たことを受けて客足が伸び悩みました。同様に前雨予報にも悪天候予報が出たことを受け満席にならない日々がありましたが、その後は天候に恵まれ8月後半は好調。昨年度同月よりも売り上げを伸ばすことができました。秋の後半もキャンプ利用が可能になったことも認知度が上がり、早い段階で昨年と同程度の予約を確保。また、昨年好評だったキャンペーンを今年も展開することで集客を伸ばせることを目指しています。



協会インスタグラム3000人突破

大月町の美しい景色やイベント情報を世界中に発信するSNS(情報共有や発信ができるインターネットでの会員制サービス)のインスタグラム(登録者数3000万人)の登録者がこの度3000人を超えました。ひとえに大月町の景色に惹かれた町に関心を向けられていることが数字に現れたひとつの形だと言えます。これから当協会からの発信で大月町ファンを増やして行きたいですね。



ウインドファーム風のたよりと竜ヶ浜キャンプ場通信はお休みさせていただきます。風車開放日は現在調整・準備中ですので決まり次第協会HPなどでお伝えいたします。

昨年度末の町内唯一のホテル『ベルリーフ大月』の閉店を受け、観光客（特に家族連れやシングル利用）が町に遊びに来る際の宿泊の選択肢が減り、来町者の観光スタイルや客層が大きく影響を受けました。GWや夏季はどうしても宿泊ベッド数が足りなかったところ20室規模のキャパシティの減少は大きく、また宿泊にホテルスタイルを期待する客層も取り逃がしてしまうこととなりました。温泉のない大月町で大きなお風呂に宿泊なしで入れることや、ランチや豪華な夕食を食べられる場としても大月町の魅力の一つであったがため毎年利用されていた方も多く、数字だけでなく心情的にも寂しい思いをされている方も少なくありません。また宿泊を足がかりに朝からアクティビティ参加ができ、午後帰宅の途に就くといった旅行スタイルへのダメージも大きく、特に観光事業者からは今後の復活が切望されています。

ハッピークリーンで美化を継続

観光協会が手渡されたゴミ袋に町内の路上や道端に捨てられたゴミをいっばいにしたら押ししてもらえるスタンプを集め、苺氷やソフトクリームといったおいしい大月のスイーツなどと交換できる『おおつきハッピークリーンプロジェクト』が3回目を迎え始めました。空いた時間や観光のついでに美しい大月を守る活動に参加しませんか？期間中は何度でも参加できます。観光協会にお立ち寄りいただいてプロジェクト専用ゴミ袋とスタンプカードをお受け取りのうえご参加ください。期間は令和8年1月31日（土）まで（年末年始の協会休業日のぞく）。

『高知県体験プログラム安全管理ガイドライン』をしつかり守って、お客さんに安心していただけるよう努めましょう。



春遠ダムツアーを想定して視察

春遠地区に再来年竣工予定の春遠第一ダムに、ツアー客を呼んだ場合どのようなコースを作ることができるかなどを想定して、町役場産業振興課、観光協会およびガイド会で視察に伺いました。春遠の山中の貝ノ川水系の家ノ谷川の治水や利水を主としたダムで堤の高さは31m。完成した場合の堤の脇から完成時を想像してみたり、ダムの底に沈む上流やダム正面の下流方向やコンクリートを現場で練り上げるプラントなどを案内していただきました。

完成前と後では見どころや安全なエリアも変わってくるため、どちらも想定してダムの内部を歩きましたが、完成前にはダムマニアには至極のツアーや、完成後は教育ツアーなどでも展開できそうです。実現にむけて夢が膨らみます。



今年も植物めぐりの秋到来

NHK朝の連続ドラマ「らんまん」を機にはじまり、一年を通しての行事となっている「おおつき植物めぐり」が秋を迎え、大堂海岸を舞台に幻の蝶を追う『アサギマダラ舞うホルトノキ林を歩く』（10月25日開催）と、小才角のCOSEAで『地域の木で燻す里山くんせい実験室』（12月20日開催）と2つのイベントが開催されます。どちらのイベントも大月の豊かな自然の素晴らしさを肌で感じられる貴重な機会ですので、お友達もお誘いのうえご参加ください。ご予約お問い合わせは大月町観光協会までお気軽にどうぞ。



大月むかし探訪△6▽
「希望の道」

国道から柏島方面（県道を下り、途中樫西海岸と分岐する交差点のそばに『希望之道』と書かれた石碑がある。一見山道の入り口に見える）それは、昭和三十九年の開通式典（幡多農高大月分校で開催）に中四国農政局や県農林部長、県議会副議長なども参加するほど地元期待の明るい将来を背負つた道だった。頭集地区立から遊々駄場、曽地などの開拓地

※『希望の道』の命名
当時の溝淵高知県
知事によるもの。

は開拓地の柑橘
麦、芋などの耕作
物を運搬する

際の不便を解消する力となったほか、宿毛湾沿岸の主要な移動手段が毎路だった当時

荒天時に陸の孤島となつた際に一時間以上かけて平山・頭集の山越えをしなくてはならなかつた安満地区にとつて

大きな希望となった。現在も通行は可能だが、柏島方面や平山く安満地にトンネルが開通してからは交通の便が劇的によくなり、沿道での農業を行う人などが利用するのが主の、のどかな山越えの道の一つとなっている。

